

小学校 理科

令和7年度
全国学力・学習状況調査

調査問題の内容

問題は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

学習指導要領に示されている各領域に基づき、粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を基にして書く問題、発芽する条件を調べる実験において条件を制御した解決の方法を選ぶ問題、水の温まり方について問題を解決するために適切な方法を検討しその方法を記述する問題などが出題されている。

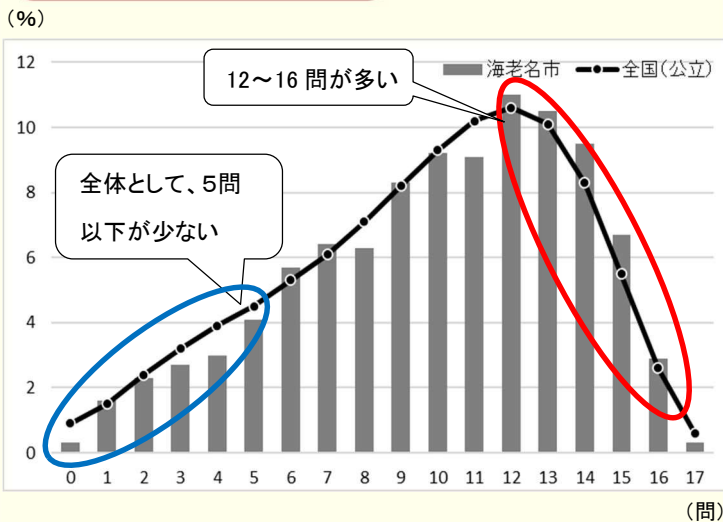
全体の結果

	海老名市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との比較
平均正答率	58.7%	57.1%	57.1%	1.6
平均正答数	10.0 問 /17 問	9.7 問/17 問	9.7 問 /17 問	0.3

平均正答率…平均正答数を問題数で割った値の百分率

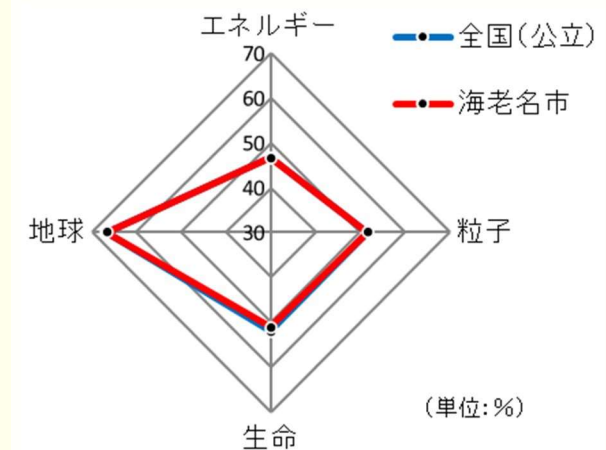
正答数分布グラフ

(横軸:正答数, 縦軸:割合)



- * 正答率 50%以下(0～8 問)の児童の割合は、全国と比較してやや下回っている。
- * 正答率 80%以上(14～17 問)の児童の割合は、全国と比較してやや上回っている。

学習指導要領の領域等の平均正答率



- * すべての領域において、全国と比較してやや上回っている。

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数	平均正答率 (%)			平均無解答率 (%)		
			海老名市	全国(公立)	全国との比較	海老名市	全国(公立)	全国との比較
学習指導要領の領域等	エネルギー	4 問	48.6	46.7	1.9	1.1	1.2	-0.1
	粒子	6 問	52.4	51.4	1.0	2.7	2.4	0.3
	生命	4 問	54.7	52	2.7	2.6	2.4	0.2
	地球	6 問	67.7	66.7	1.0	2.9	2.9	0.1
問題形式	選択式	11 問	56.8	54.7	2.1	1.7	1.4	0.3
	短答式	4 問	72.3	69.7	2.6	3.0	3.2	-0.2
	記述式	2 問	42.1	45.2	-3.1	9.6	10.0	-0.4

海老名市の結果についての分析

- 平均正答率は、全国平均をやや上回っており、差はおよそ 1.6 ポイントである。
- 平均正答率が全国を上回った問題は、17 問中9問である。
- 無解答率は、全国との差がほとんどない。
- すべての領域において正答率が全国平均をやや上回っている。最も全国との差が見られたのは「生命」を柱とする領域である。

成果

- 理科の問題解決の過程における「考え方」の1つである「条件制御」をよく理解し、目的に合った正しい実験の方法を考え、表現することができている。
- 1つの実験の結果をもとに、他の条件で行った場合の実験結果を予想することができている。
- ヘチマの花のつくりや植物の受粉について、コイルの巻き数と電磁石の強さの関係など、基本的な知識が身に付いている。

課題

- 「電気を通すということは、金属の共通性質である」という概念の理解に課題が見られる。
- 実験結果を整理したり、比較したりしながら考察し、理由を明確にして結論を導き出すことに課題が見られる。
- 実験結果を整理し、比較して、差異点や共通点を捉え、新たな問題を見出していくことに課題が見られる。

指導の改善に向けて

◆1つひとつの知識をつなげて、概念的に理解できるように

- 例えば、様々な物質が「磁石に引きつけられるか」「電気を通すか」についての実験結果を1つの表にまとめ、そこから気づく点について話し合う活動を取り入れるなど、実験結果を整理し、比較し、考察する学習活動を充実させる。

◆観察・実験の過程をとおして、問題解決の力を高められるように

- 考察の場面では、「こんな方法でこんな結果が出たから、このように判断できる」と、事実と解釈の両方の要素が含まれる考察ができるように指導する。
- 結果・考察から導き出した結論を他の場面や日常生活に当てはめて、「それならば…」と児童が新しい問題を見出すことができるような授業構成の工夫と指導の充実を図る。